

新潟豪雨災害の特徴

1. 狭小流域に発生した集中豪雨

・局所的かつ短期間に発生した「集中豪雨」によって中小河川流域に広がる市街地が被災

2. 急激な事態の進展

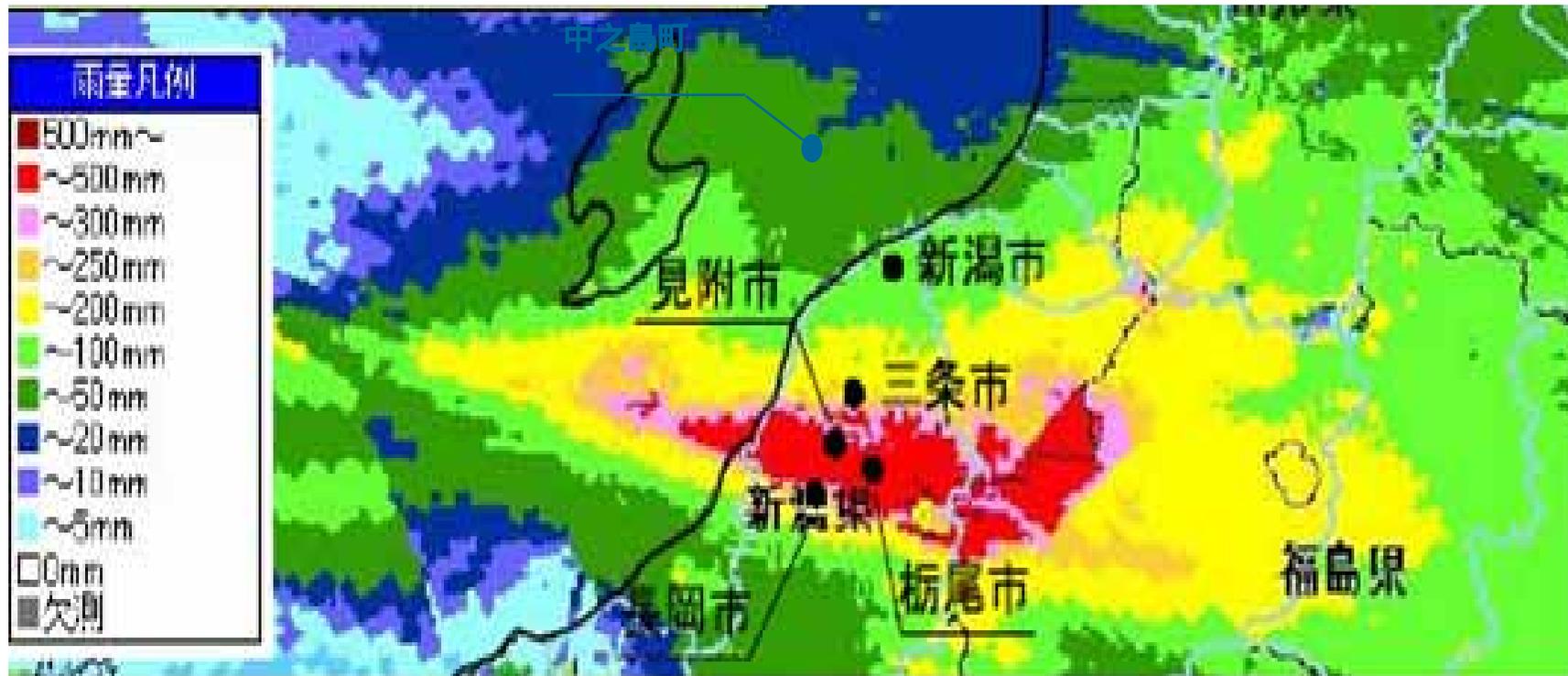
・強い雨が降り始めから5、6時間後には、堤防決壊に至るような危険な状態

3. 破堤氾濫に伴う激甚災害

・五十嵐川、刈谷田川が各所で破堤し、大量の土砂を含む激しい氾濫流により、犠牲者15名、膨大な経済被害が発生

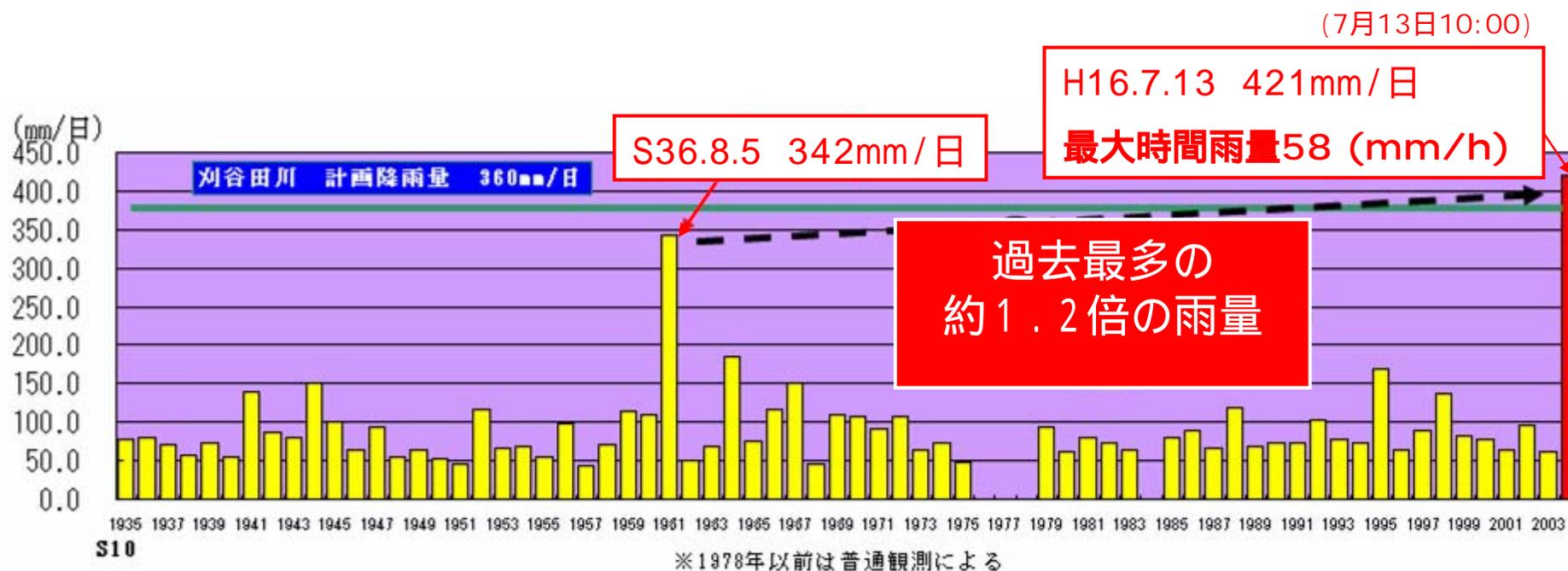
7月13日0時～13日24時 累加レーダ雨量

前線の停滞により狭い範囲に集中豪雨をもたらし、平年の7月の1ヶ月分の降水量を大きく上回る量がたったの1日間に降った



栃尾雨量観測所（気象庁）における年最大日雨量の推移

栃尾雨量観測所では、昭和10年以降、最も多かった昭和36年の年最大日雨量の約1.2倍もの降雨を記録



出水概要

水位

信濃川下流本川では、荒町水位観測所(三条市)及び保明新田(田上町)では危険水位を超えたほか、他の全観測所でも警戒水位を超えるなど、水位がかなり上昇した。特に保明新田でのピーク水位は危険水位を1.57mも上回るものであった。

また、多くの水位観測所で既往最高水位(関屋分水路通水後)を更新した。保明新田水位観測所においてピーク水位は8.20mに達し、昭和53年6月洪水時に記録した7.45mをも上回った。



信濃川下流域観測所配置図

平成16年7月13日出水 信濃川下流河川最高水位状況(7月16日時点速報値)

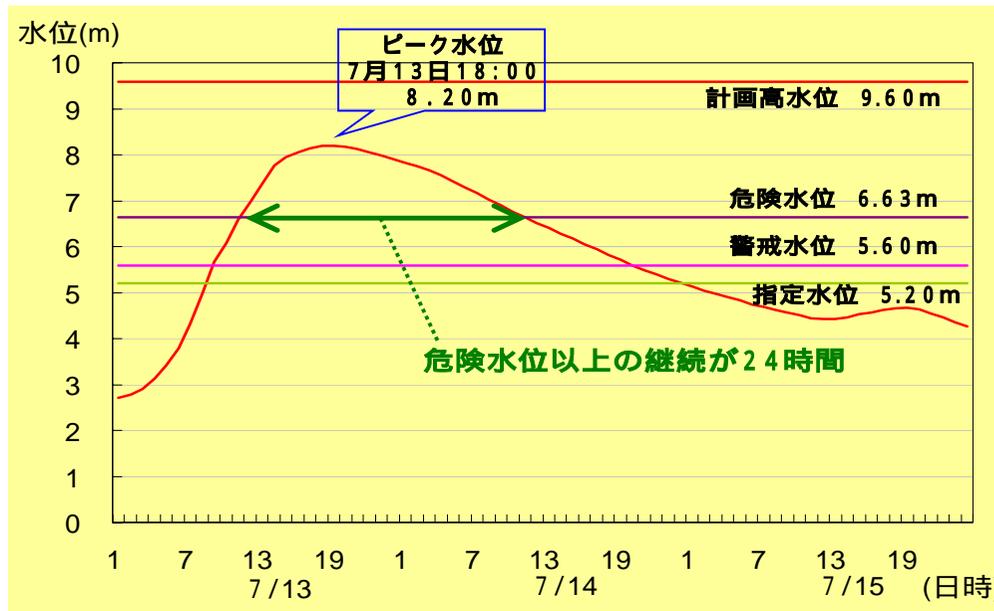
水系名	河川名	観測所名	指定水位(m)	警戒水位(m)	危険水位(m)	計画高水位(m)	今回出水(平成16年7月)			既往最高水位 (関屋分水路通水後(S47年以降))	
							日	時刻	ピーク水位(m)	年月日	水位(m)
信濃川	信濃川下流	尾崎	8.20	8.70	10.89	13.20	13	16:00	11.02	S53.6.27	10.53
		荒町	8.00	8.50	-	12.25	13	17:00	10.78	S53.6.27	10.51
		保明新田	5.20	5.60	6.63	9.60	13	19:00	8.20	S53.6.27	7.45
		白井橋	3.10	3.40	-	7.08	13	22:00	5.03	S63.7.10	4.32
		新酒屋	2.50	2.80	-	5.84	13	22:00	3.75	S53.6.27	4.13
		帝石橋	1.50	1.80	3.89	3.97	13	22:30	1.99	S53.6.27	2.00

平成16年7月出水状況（信濃川下流）

【過去の主な洪水との比較】



【水位状況(保明新田地点)】



出水概要(帝石橋観測所)

最高水位: 1.99 m

最大流量: 2,330 m³/s(速報値)

